

人文学部卒業研究

ラクロスを普及させるための映像を

通した試合表現の現状と課題

題 目 - 東海学生ラクロスを利用して -

指導教授 小川 順子 教授

印

提出年月日 2018年 12月 14日

学籍番号 HI15003

氏 名 天見 知樹

お願い

本卒業研究は、著作権の関係上、指導教員または執筆者本人の許可を得たうえでの閲覧のみを許可し、複写およびPDF等によるデータの受け渡し等は、一切禁止する。

万が一、禁止が破られトラブルが発生した場合、本卒業研究の関係者は一切の責任を負わない。

何卒ご了承ください。

ラクロスを普及させるための映像を通した試合表現の現状と課題

- 東海学生ラクロスを利用して -

HI15003

天見 知樹

要旨

大学ラクロスでは、近年、規模の大きいラクロス部を中心にライブストリーミングサービスを利用して試合を中継する機会が増えてきている。また、試合観戦してもらうことに重きを置くラクロス界では、今後も生中継でなくとも試合を全て配信する大学は増えると筆者は予想した。

そこで、本研究は、ラクロスを普及させるための映像を通した試合で、どのような情報を提供することで未経験者から見てラクロスが魅力的であるかを調査し、それを基により普及に効果的な試合表現を提案するものである。

実際に調査するに当たり、筆者が中部大学男子ラクロス部に所属していた関係から、実験などを行いやすい環境であるため中部大学男子ラクロス部を利用する。尚、実験は夏山（2010）を参考にを行う。

調査するにあたり実験を合計で3回行った。どれも試合を視聴してもらう形は同じだが、実験1では補助情報の提供は行わず、実験2は、実験1で出た意見を基に映像の拡大や字幕、テロップによる情報提供を行った。最後の実験3では、実験2までの編集はそのままに音声によるルール解説などの情報補助を行った。

結果として、実験を通して課題となったのがルールの理解度と試合展開の理解度の2点だ。まずルールの理解度だが、映像と音声解説での提供でかなり改善された。しかし、ルールを詳しく知りたいという視聴者にとって、情報不足は否めず、全体的に解説などの情報量を追加する必要があると感じた。ただし、プレーは中断する間が少ないラクロスでは、制限があるため長時間プレーの止まるクウォーターごとに補足解説をする必要がある。また、もう一つの問題点として視聴者がボールを見失ってしまう点があった。これに対する改善点として、長期的な解決策になるが、ボールの軌道を見せるシステムを導入することを提案する。技術的には、すでにゴルフで実用化されているため実現可能だ。しかしながら、部活動単位で購入することは資金面や人員の関係上難しいため、アマチュア組織としては視聴者層や目的を絞り放送することが必要だと結論付けた。

また、本論分執筆中にテレビ朝日のCSチャンネルでラクロスの試合が中継された。筆者も視聴したが、やはり、リプレイ映像の少なさや解説不足から経験者向けの放送となっていた。ボールを見失う問題点も、比較的大画面であるテレビでも、未経験者は、見つけ出すのが難しいように見えた。やはり新しいシステムの導入は必要だと感じた。

キーワード

ラクロス 普及 補助 試合表現 軌道

目次

1章 序論.....	1
はじめに.....	1
研究目的.....	1
スポーツの影響力.....	3
スポーツ普及によるメリット.....	4
現状の問題点.....	5
2章 メディアとの関わり.....	5
スポーツビジネスとは.....	6
人気スポーツの放映権.....	7
ソーシャルメディアによる普及事例.....	8
3章 ラクロスというスポーツ.....	8
4章 実験.....	9
実験1.....	9
調査内容.....	9
視聴後アンケート結果.....	9
実験1考察.....	10
実験2.....	10
調査内容.....	11
アンケート結果.....	12
実験2考察.....	12
実験3.....	13
調査内容.....	13
アンケート結果.....	14
実験3考察.....	15
5章 考察.....	16
ボールの色を変える.....	17
ボールの軌道を見せる.....	18
6章 テレビ放送.....	19
7章 おわりに.....	19
参考文献.....	20
参考Webページ.....	22
付録1.....	i
付録2.....	iii
付録3.....	v